

Handwritten text in Arabic script on aged, yellowed paper. The text is arranged in several lines across the page. The script is cursive and appears to be a form of Ottoman Turkish or Arabic. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.



長年 舟にのりて 舟にのりて

舟にのりて 舟にのりて 舟にのりて

舟にのりて 舟にのりて 舟にのりて

舟にのりて 舟にのりて 舟にのりて

舟にのりて 舟にのりて 舟にのりて

千代子乃月ハ小支度ニ酒解
 之宵今夕麦草亭に宿りて

文和

十^{イザヨイ}六^{チヤエン}夜^{ムカ}や茶園^{ムカ}成^{ムカ}しれ^{ムカ}運^{ムカ}ひ酒

船^{モト}乃^子宿^ナ夜^ナ成^ナれ^ナ風^ナお^ナの^ナ松^ナ 宇^ナ麦^ナ

耕^{スキ}籍^キ身^キ今^キ年^キ村^キ々^キ茶^キ園^キに^キ調^キあ^キめ^キ 素^キ元^キ

自^キ木^キ茶^キ船^キの^キ身^キし^キ海^キぬ^キる^キ 吉^キ清^キ



コロイ 腰コシかけの湯とけりぬ 市イチ付ツキあや 麦

二条河又カミ髪カミ所トコロ止トドりて 玉タマちき 和

コカッ 講コチ釋シヤリ上カチ清ツリ梅ホウ枝エ乃ナ行イく 坊カウ 隣

羽ハ音ネすぬき 起オキく 鳥トリ 元

又マタあれと 市イチ折セ文モンれ 名ナ所トコロ 和

借カリ急ギの人ヒト 小コ橋ハシ 舟フネ 麦

ゴマ トキ 後ゴ摩マ堂トキ乃ノも 立タて 参マツり ち 元

夏ナツの 大オホ根ネ 山ヤマ川カハ 初ハツ分ブン 里リ 湯ユ

口クチの 小コたれ 小コスリ 賣ウり 見ミ 麦

カヤナ 刀カの 能ノを 渡ユツり 橋ハシ 和

ハカ デバ 介ハカ下ゲ馬バと 茸マシ毛ゲ 重ヒ毛リ 野ノ毛ゲ 麦

糸イトの 乾カフり 古コれ 人ヒト 形カタチ 麦

湯ユ泉ノ家ノ家ノ沖ノ心ノ海ノ舟ノ心ノえ
 彼ヒ岸ガ心ニ力ニ一ツ鶴ツ心ノ舟ノ心ノえ



全

夏和師の業の——このまを
 浮月亭ゆらぬぬ席と併せ
 舟をさす夏うね林の一回一舟
 舟うて家活し一及いぬ

十六イ舟サ也ヨ席イのカ出リ舟ノ砂ス屋ヤ友シ
 ねニ基ヨ心ナ友ト心モ心ノ心モ心モ心モ
 夏和

素系え

全

昔は二夜の月とありて

十六夜やイサヨイ櫓ロ杭グイはツキ舟ボネのホト音ト 古

ん透スカへニワ庭ニワれキク奥ケイをトウ鶉ウのツキ月ツキ

初ハツのツキはヒツ蒲フ団トハニホ桂キ乃ニホ白ヒひヒりヒてヒ 李リ夕セキ

全

十六夜やキ松マツのキ清キりキ庭ニワ籠カゴのキ火ヒ 夕

西シのシ風カゼはシさシしシきシるシ樓カド乃カド番バン 夕

五イ事ジ乃ニ久ク乃ニ秋アキのニ秋アキ乃ニ素ソえエ

全

良庭と美水とをては香清をを
枝かゝる寺流の光暉をわく
流いりやを平の事窓も作さそ

湫入クワ金奴カヌ子コれレ池イケやヤ新ニ土ツ花ハ

うま

汁シとト体カひヒれレ膏コ月ツキ乃ノ晴ハ

香清

鏡カミ釣ツリのノ仕シ合カをヲ世セ果カ中チれレ

美水

耕舎の意をなまき度かりよ
其の意はくまらん

木キれレ形カタ一ヒト風カゼのノ着キわワ喜ヨおオ家カ

香清

秋アキとトんン世セ出デはハ沃カ土ツ一ヒト家カ

うま

膏コ月ツキ孫マコ山ヤマ桐キナンドのノ内ウチ候コト

香清

全

草屋乃猪田の傍に秋の
夕暮の光を
おれしあわれつら麻の杭を
うゝめん

明月や傍より換りて
交和

夕望ししあは秋の
素元

市飲乃本屋より
素元

全

樽垢乃一酌と
素元

苞いけく物秋の
素元

月よの早家より
素元

全

想傳しし本屋の
風呂乃

のくねくねした時分
月をくねくねした
探しゆく

碓^{キコク}より物^{モノ}や庭^ニ乃^ハ白^{ウキ}土^{ツチ}に
夏^{ナツ}

枕^{マクラ}かやうく
寝^ネん
漸^{ヤカサカ}々^々
書^{カキ}え

八月の湯と世^ヨいと友^{トモ}の
書^{カキ}え

伊^イはなはな
静^{シズカ}か
多^タう

秋^{アキ}の山^{ヤマ}阿^ア方^{カタ}や人^{ヒト}多^タし
書^{カキ}え

都^{ミヤコ}坊^{ボウ}の
虎^コ

所^{トコロ}一^{ヒト}月^{ツキ}れさ
全

全

北虎英云 那せり 春と葉打り今更の
清多め侍へ流い後朝れ一章は
わしきふいさうとむか して

風ゆりた流り一本や霧れ舞 三宇麦

葉とまき アテヒキ 竹し ユミ 流 ユミ 北虎

細打 アミウキ 出 ユケ 形 ナリ 秋 ヒキ 全

全

三行亭の風葉か飽に葉度り扇るよ
あいに山席の葉葉は運きて

細い葉 カク 摘 バツ 獨 ヒトリ 秋乃風 杏津

扇 エ の カキ 入 カキ 枝 カキ 檜 カキ 素 カキ 乞

龍 ク 月 ヒ 延 ヒ 乃 ヒ 獨 ヒ 乳 ヒ 割 ヒ ぐ ヒ 宇 ヒ 麦

全

あふきの相傍の只の井と流る
あふきの流る

菊丸咲く白い柳や砂の門 素元

けしき 秋 一 暮る

風白き猶もくまのつや柳の流る 平夏

秋風もあふや流るもくまのつや柳の流る 杏淵

田舎流る船便りふ流るも成
偈ひ流るの柳もくま

素元

あふきの流るもくまのつや柳の流る

秋のあつあつを流るもくまのつや柳の流る 杏淵

偈り白き角力乃核交調あそ 文和

田 一 暮る

あふきの流るもくまのつや柳の流る 杏淵

おくの藤正し思われ院まの
こころを

松見し水乃拍子や庭ま秋 交和

枝落しあられ雲や苔お糸 素え

秋舞く水新とわく庭れ夏 杏瀬

多くまねきと海し妻れ秋 落巴

色鳥れ割れお都あし水新松 雲中

今 春より里舟まふ訪ひ

藤掛ふ花おれ春や新と解り 夏和

菊の色の野風よあや妻庭友 時和

藤衣まこ給とら堀や夕紅紫 杏瀬

菊れまや庭の流中酒まら 素え

重九も秋意の心あはしく

素元

とらふ菊やアタシ酒ニシも香

い味いんいといと秋乃奇合香

月の雨ささくアタシ絶アタシれ

全アタシ重湯と香アタシ身は白アタシかり

顔ヒシ白シロれヨ巾アタシやアタシ菊アタシ

あささめゆく朝の風香素元

下衣を後乃アタシ菊アタシ打アタシくアタシ衣アタシ

全

長月のふ通アタシかアタシるアタシ香

葦アタシやアタシ店アタシとアタシ菊アタシ漸アタシハアタシ梅アタシ家アタシ

無名店の入と麻記のつとがえり
梅屋房のえり

今の子あや澤の山あやり柳鶉 ウツラ 素え

病の治く空あや店 イナ の道 素え

庭松乃洞 ウツキ の首や九月 ツキ の 素え

全

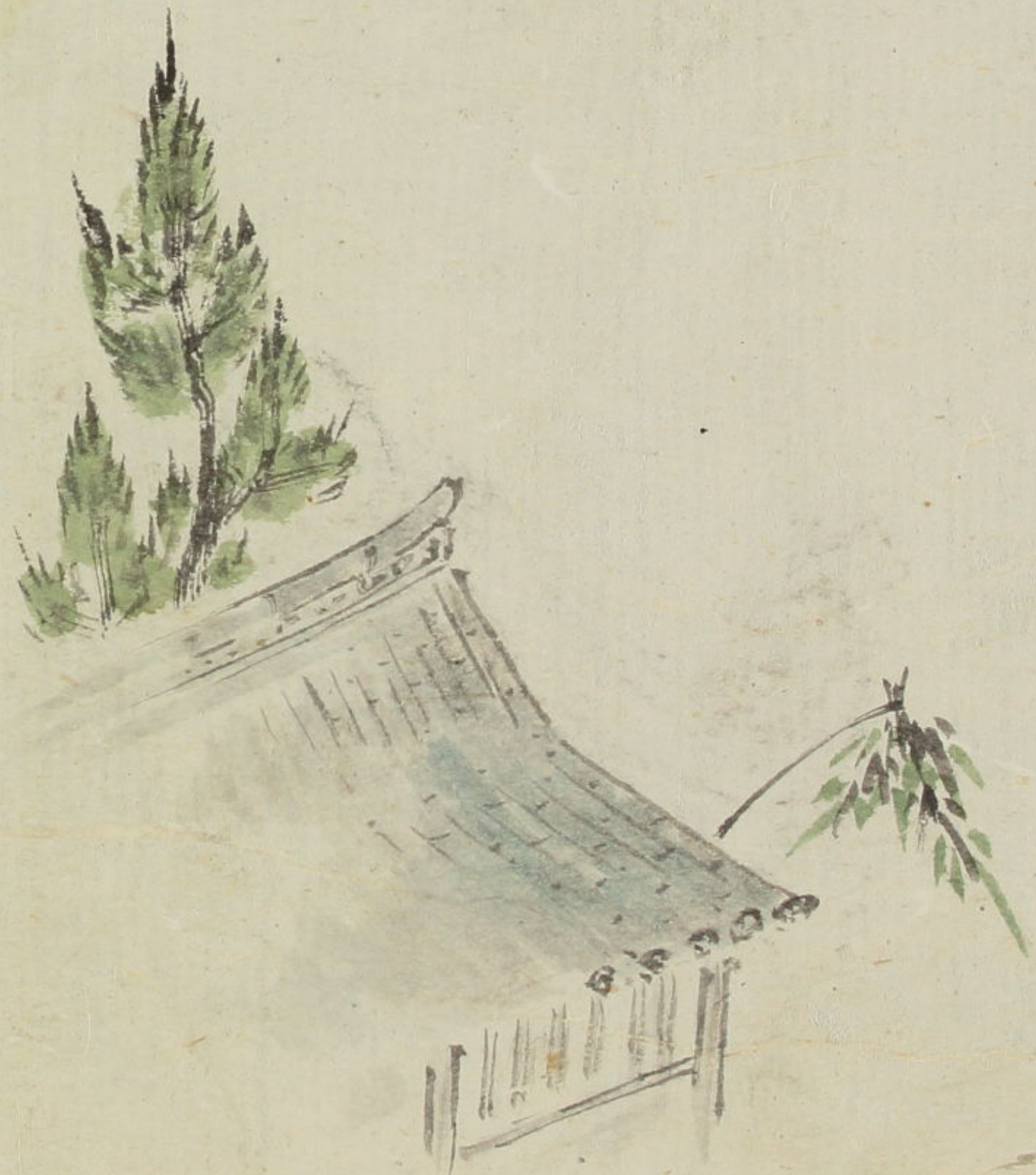
月れ矢のりりや今年
古の乃あてのよあ梅渡子の
志一と昔月あてと空名店の
匠席ああはくを吹か
えりや一送りあ

菊とらん ヨイ子 寝くられや正月 素え

湫 クラ 入とぬ ナニ 子 ナニ の花 ハナ や草の花 クサ 中 ナカ 麦

牛 ウシ 始 ハジ る ハジ 雲 クモ は ハ り ハ 雲 クモ や クモ 霧 キリ 雨 アメ 杏 コウ 流 リウ

名^{カニキリ}の^カと秋^サを^サ嘆^サくや 十二日 更和



十三夜とて暮^カき^キの^ノ無^ムの^ノ一^{ヒト}

素元

酒^カの^ノ是^{コノ}代^ノの^ノ白^クの^ノ後^ノの^ノ月^{ツキ}

咲^{サキ}始^{ハジメ}め^ノの^ノ朝^{アサ}の^ノ下^ノの^ノ菊^{キク}の^ノ香^カ

箱^{ハコ}入^ノの^ノ濃^ノ子^ノに^ノ秋^ノの^ノ名^ノを^ノ記^シす^ル 季夕

全

さ^サの^ノ水^ノ鳥^ノの^ノれ^レの^ノい^イや^ヤ底^ノの^ノ月^{ツキ} 季夕

縁エ先サキ白ニテのカキ標カキもホシ干ホシ上ホシテ 麻マ也

湖アライをハくハ流ハいハぬハ威ハのホシ柳ホシ巻ホシくホシ 素ホシ也

全

久ク年ニ母ホ乃モ志モリ竊ウ子コ也ゴやホ流ホのホ母 けマ也

風ア流フ水シ窓キ乃サつマのマ霜モ夕ト 夕ト

舟フネをフりリぬリ松マツ前マエ心ココロ一ヒト結ムス園ヅミとト 麻マ也

全

草クサ糸イトのノ拾ヒいキ麻マ也也后ノチのノ母 麻マ也

麻マ也也とト流リくク板イタ定サ標ヒシ乃モ也 素ホシ也

菟ウ乃ノりリくク小コ雀カズ乃モ吉キチ坐マ折マ合アくク けマ也

全

福江^{フクエ} 積^{ツミ} 産^{ウミ} なる^カ 春^{ハル} 鳴^{ナリ} や 辰^{ツチ} の 月^{ツキ} 杏^{コウ} 露^ロ

水^{ミヅ} 奏^{ソウ} 乃^ノ 流^{リウ} め^メ なる^ル 羽^ウ 十^{ジュウ} 名^ナ 全

を^{トキ} 濟^{ノリ} め^メ あり^{アリ} 秋^{アキ} の 江^エ 中^{ナカ} 是^{コト} 全

全

磯^{イソ} の 火^ヒ と 干^{ホシ} 鰯^{イサナ} 魚^{イサ} や 辰^{ツチ} の 月^{ツキ} 杏^{コウ} 露^ロ

冬の部



時^{トキ} 毎^ヘ う^ウ や 並^{ナラ} べ^ベ 辰^{ツチ} と 是^{コト} 果^{クワ} 実^ミ 如^ニ

男^{オトコ} もよ^ヨ 福^{フク} 江^エ く^ク 卵^{タマゴ} や 初^{ハツ} 時^{トキ} 毎^ヘ 杏^{コウ} 露^ロ

時句もや ^{モユ} 春の梅の姿 空麦
廻 ^{エキ} 梅も白くや 初時雨 素元

全

初春の物さし ^{モユ} 梅の白くや 初時雨 素元
の春枯と ^{エキ} 春の梅の白くや 初時雨 素元
土一 ^{モユ} 春の梅の白くや 初時雨 素元

水さし ^{モユ} 梅の白くや 初時雨 素元

素元

春 ^{モユ} 梅の白くや 初時雨 素元
雨 ^{エキ} 梅の白くや 初時雨 素元
梅 ^{モユ} 梅の白くや 初時雨 素元
空 ^{エキ} 梅の白くや 初時雨 素元

物ぞし種ま日たさ不推令よ
先けけしきふの二風子よ
まきふは海もさるも海知ぬと

互^{トモ}海^{ウミ}や掃^{ハキ}てハ掃^{ハキ}くも^ラは^カる

若^{ワカ}東^{トウ}の西^{セイ}風^{フウ}い乃^ニ西^{セイ}相^{サウ}烟^{エン}月^{ツキ} 素^ソ元^{ゲン}

粉^コ乃^ノ吹^{フキ}沖^{ウチ}を^ヲ吹^{フキ}く^ル春^{ハル}の^ノれ 杏^{コウ}露^ロ

全

夜^ヨま^マの^ノれ^レく^クる^ル庭^{ニワ}か^カし^シ地^チを^ヲ見^ミ所^{トコロ}
く^クる^ルれ^レし^シす^スれ^レし^シま^マ実^ミ不^フ推^{ツイ}令^{レイ}は
海^{ウミ}の^ノ風^{フウ}を^ヲ粘^ネ山^{ヤマ}の^ノ風^{フウ}流^{リウ}泉^{セン}を^ヲ
掃^{ハキ}せ^セく

素元

時^{トキ}毎^ヘ日^{ニチ}の^ノれ^レ海^{ウミ}の^ノれ^レ風^{フウ}を^ヲ掃^{ハキ}て^テも^モる^ル 素^ソ元^{ゲン}
能^キふ^フの^ノの^ノる^ルる^ル粘^ネ乃^ノ中^{ナカ} 素^ソ元^{ゲン}

揚^{ヨウ}子^シの^ノれ^レ海^{ウミ}の^ノれ^レ風^{フウ}を^ヲ掃^{ハキ}て^テも^モる^ル 素^ソ元^{ゲン}
揚^{ヨウ}子^シの^ノれ^レ海^{ウミ}の^ノれ^レ風^{フウ}を^ヲ掃^{ハキ}て^テも^モる^ル 素^ソ元^{ゲン}



石振今^レ古^レ存^ル十^レ回^ニ乃^レ法^ニ延
 高^レ一^レ見^ル若^ク三^レ日^ニ以^テ振^ル札^上よ
 空^ニ夜^ノ於^テ照^ル一^レ香^ニ花^ノ波^ノ多^ク入
 齋^ノ田^ノ思^ハい^キを^シ心^ニと^シ慕^ハへ^テ迎^フ海^ノも
 小^春字^一し^こ目^ノの^あり^よ物^ニ
 竹^ノ中^一の^席より^し乃^レ幸^ハ公
 暖^ハい^ハら^ぬ情^ハ以^テ一^レ句^ニよ^リ綴^ルか^レ

早^キキ^キ
 羽^ノ起^ルや^青葉^ハ氷^ノ霜^ハ以^テも^ハ向^テ雁^ノ和^シ
葉^ノ今^ノ全^ク 夕^ノ子^ノ 更^ニ和^シ

千^ノ鳥^ノ乃^レ沈^ルを^危下^レれ^る言^ハ杏^ノ露^ノ

不報金の意志一のりして祖孫の
去きとてなかり給らんを時毎月
十二日風を拓くもさるる一
流石とけおは道す一して
是の席一の世とぬ

三飲亭

素元

はり
乃日の時毎明りや一給一

花新一一さ座れを草

宇夏

和より羽織もなを以て相と

夏和

湯風呂もたは貝もを以て

素元

熱子ウくく名月もり大如橋

夏

考トモれ之り秋乃風吹

え



松風也

霜花

雲下

雲

おん

鳥



素元

海より川を冬も年持 ^{タケ} たり ^{カリ} 矣 ^カ

碓氷 ^{トイニホ} 越 ^ル 舟 ^{フネ} を ^カ 舟 ^{フネ} へ ^カ 結 ^ツ ち ^ヒ け ^ル 矣 ^カ

雨 ^{アメ} 止 ^ト 晴 ^ヒ る ^ル 所 ^{トコロ} 中 ^{ナカ} の ^ノ 鐘 ^{カネ} 杵 ^ウ

名 ^ナ 月 ^{ツキ} の ^ノ 前 ^{マエ} を ^ヲ 憶 ^{オモ} 出 ^ヒ ぬ ^ル 籠 ^{カゴ} 子 ^コ の ^ノ 水 ^{ミヅ}

聲 ^{コエ} と ^ト 思 ^{オモ} へ ^ル 秋 ^{アキ} は ^ハ 澄 ^{スミ} 々 ^ク 矣 ^カ

横 ^{ヨコ} 室 ^{ムロ} の ^ノ 水 ^{ミヅ} 流 ^ナ ぐ ^ル 舟 ^{フネ} 更 ^マ 昔 ^{コト} 掛 ^ケ か ^ル 也 ^カ

遊ケ合アをセくミるコ今ト年ニ鶴ニ 麦

扇モトのフ風ロ呂ニ友キ控サ 醫イ者ミ好ヤ子テ 元

汎ウ卷タらホくセ汗アみセぬルり 和

義ヨ經ミ乃ツ子子 乃フ義テのハ事ナをカ離ナれル家 麦

柯ニ次コくニ木ニ依リ法ニ因リ代ノのハ林ニ 瀝

布ヌ晒サとシ川ニをド何コ亦クりリ風ニ立テ 和

塚コのハ石ノ出ルをタまシぬル 元

心ト者シ乃シ喚ニくキ 一ヒ二ニ 垣カ 瀝

門カのハ條ス々ニ於テ法ホ楷ウのカ駕コ 麦

花カ望カのハ心ノ一ノをスれル 懸カへル香コ 海ノ明

とスらシくニ行ク波ノのハ波ニ 瀝

あまのれ海へ出たはむし
作持きて石取金小飽は

宇麦

草人美濃りや折くや冬牡丹

草人美濃りや折くや冬牡丹
草人美濃りや折くや冬牡丹

橘の下腕高いとも舟もく
素元

吹矢の的とも管も夕月
素元

秋草の字は深き管一房り馬
濃

子よと更りよは御女あり
麦

竹の皮をうらむ控れ淋し
日

春の海の色を春原とらる
元

月並の海へ網も門徒寺
麦

牛一ふを身れ海を夏れ日
濃

あゝ貴年を以て新節の句く
元

千おの中 通れ 表道
和

縁付形 獨り 仕事よ 昔れ月
和

蜜漬 庵く 温泉山の秋
麦

あふく 神一人の 秋長く
和

新い 男の子 寝時 夜家
元

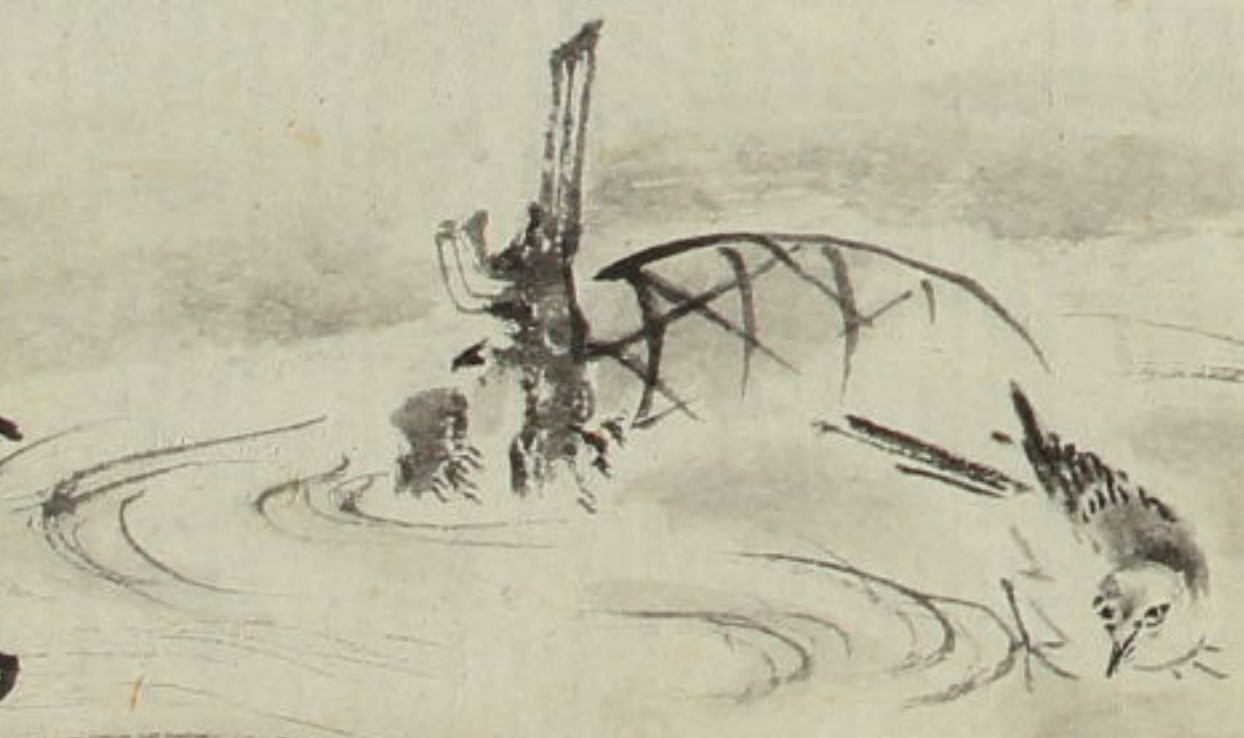
芝く 泉か 市れ 候 摘花 ありり
和

中 花 庭 返 遊く 山く 蝶く
和

全



風を春の別墅と
あん思ひ 遠くや 佐藤
し 旅ひ 多くと 旅ひ



あふく や 志く 志く 志く 志く
和

お男子の福子コアリを身にお月お影え

秋の信コト中コトよせとて内場ウチノバお

全

又通よしあり

みち栢スミツや岩イハにさあの一ゆりウチノバお影カゲ

題トキ 号カケ

口クチ切キリや寺テラを何ナニ時トキのあさアサにニあ

みちミチ崎サキのノ鳴ナリるル月ツキ影カゲ

帆ホのかノ減ヘリ早ハヤみ星ホシ雲クモ後ノチりリ

全

只切や川を酒屋に二下海汲ニシメグミ

りあくくよおの船舟

鳥れ新ちうれまの漆おろ

全

東海一舟の雲かつり花ニシツク

流る汲いじめらるる

杏海

四山を欄のさうサウききケヒリ帰トヒくサイ

全

只あけく帽ボウシ子乃連ツレるみりカむウマ

一ヒト身ミを存シるれすシこコ船ネをネ

上ウラ終エ去カおんカの定マめドめドれレ

各款白

クニキリ
口切や雨さるしとら奥あり 風松

一や楊あかりは菊散い 海明

一や菓と後乃喰おし 赤兎

一や唐と印持買い猪 浮月

一や枝しやうじをの刺あ子 烏夕

一や花けりかたり細作とと 赤色

松乃葉よりさるし言ありてりむ 有教

キツコロセ
小舟と山女逢さるしあつむ 麻直

干物めれし入りや出りむ 也木

朝りよは山女あはれやあつむ 如中

探題

杉抱く舟と舟のや霜れと 来

玉に舟中ては舟や舟乃初時由 海

持寄り大舟乃れや舟乃初時由 風

初寄りや舟乃初時由 杏

舟乃初時由 舟乃初時由 時松

舟乃初時由 舟乃初時由 素

舟乃初時由 舟乃初時由 舟

舟乃初時由 舟乃初時由 舟

舟乃初時由 舟乃初時由 舟

舟乃初時由 舟乃初時由 舟

舟乃初時由 舟乃初時由 舟

うまきすのせいの

橋とをれ白いやをり

香

流ゆ乾乃浮習りおソ
うま

朝起ののたれ是結連まろく
素元

鳥螺子れ塗の乾を露ふ
流

かろ瓜陽うう腐れ月の乾
ま

お終ふ乾狐馬う啼
え

探題

糸れゆか月やかけく一門
杏雨

燈をるる果れあやみ
風花

竹の空の帯れもや啼
作松

水辺や大市ゆ出た三つ葦葎 氷虎
 初雪や娘を待つ向い空 糸里
 山菜むや暮と借息れぬ橋ひ 紗葉
 餅をすくゝるれ網掛や船所雨 烏枝
 伐り物宮ちりん灯や冬籠り 巴音
 本枯しやぬ籠らんぬ糸も下話 素元

全

昔も流るゝ岸もあつた冬れ梅 糸里
 夜半の庭の藪形や厚の氷 津松
 雪のまよ作や向もあつた沖の風 青湖
 野の雁入るゝ菜食所を此海 呂香
 竹のまよ作申れ清や 籬実 紗葉

スミガマ 炭谷や 京ニヨク家ビフシのし合ニヨク所ビフシ 素之

ヨコゲラ 庭神ミコ歩ニフや 湯ニフ茶ニフ飲ニフたニフるニフ兒ニフ女ニフ愛ニフ 鳥殺

クカコ 茶ニフ枯ニフや 所ニフ乃ニフ習ニフ所ニフ 抄ニフ子ニフ征ニフ 杏雨

ハコ 深ニフきニフ小ニフ剛ニフ際ニフ 越ニフや 春ニフ一ニフ 水虎

アヲレツ 喜ニフれニフるニフのニフ丸ニフ者ニフ 清ニフきニフや 室ニフ取ニフ 巴馬

宮ニフ治ニフや 聖ニフれニフきニフきニフきニフ 七ニフ也ニフ 風松

洋ニフ喜ニフや 家ニフれニフ白ニフいニフ 小ニフきニフきニフ 積ニフ 素之

風ニフるニフ一ニフ 夢ニフ成ニフるニフ 日ニフれニフ 其ニフ茶ニフ 燒ニフ 全

みづ

火ニフ成ニフむニフ以ニフ 庭ニフれニフ 風ニフや 年ニフ成ニフ 果ニフ 夏水

コゲゲリ 揚ニフ子ニフ 几ニフ 野ニフ子ニフ 月ニフ 下ニフ 庭ニフ 水ニフ 知柳

ハルカ 表ニフ 出ニフ 一ニフ 庭ニフ 心ニフ こと 事ニフ 水ニフ 庭水

獨吟集

素久

花火束れ^{キニキ}肩^{ガタ}挿入^{コト}を^{コト}書^シふ^{コト}ひ

梅^{ウメ}花^{ハナ}く^ク浪^{ナミ}音^ネん^ン一^{イチ}時^ジ

舟^{フネ}れ^レ洗^セ滌^リ舟^{フネ}や^ヤ就^ツくらん

竹^{タケ}の^ノ池^{イケ}利^リ芭^バヤ^ヤ一^{イチ}時^ジ

十^{イサヨイ}七^{ニシキヤウ}束^{コウ}れ^レ形^{カタ}と^ト以^ヨて^テ人^{ヒト}連^{レン}

草^{クサ}白^{シロ}巾^{キナ}初^{ハツ}於^オ門^{カド}に^ニ毎^マ時^ジ

全

其^{ソノ}物^{モノ}也^{ナリ}不^ズ多^ク枯^レの^ノ一^{イチ}口^コ三^{サン}筆^{ヒツ}
不^ズ定^ズ信^ズ常^ズ一^{イチ}か^カら^ラ一^{イチ}よ^ヨと^トと^ト
物^{モノ}く^ク中^{ナカ}に^ニ存^{ゾン}存^{ゾン}乃^ハ終^{ハシ}む^クく^ク乃^ハ
物^{モノ}存^{ゾン}を^ヲ書^クく^ク乃^ハ一^{イチ}周^{シユウ}との^ノ
此^{コノ}一^{イチ}之^ノ後^{ノチ}の^ノ流^{リウ}流^{リウ}く^ク初^{ハツ}書^ク乃^ハ
流^{リウ}く^クと^ト紙^シか^カり^リの^ノ書^クく^ク乃^ハ夕^{セキ}月^{ツキ}
と^ト乃^ハ一^{イチ}時^ジ以^ヨて^テ一^{イチ}書^クと^ト立^タれ^ル
二^ニ時^ジ書^ク一^{イチ}書^ク終^{ハシ}る^{コト}也^{ナリ}



ワラ^{ワラ}フデ^{フデ} スミ^{スミ}イロ^{イロ}サシ^{サシ}
葉^ハ草^{クサ}れ^レ書^クと^ト立^タれ^ル
一^{イチ}時^ジ以^ヨて^テ一^{イチ}書^クと^ト立^タれ^ル
乃^ハ一^{イチ}時^ジ以^ヨて^テ一^{イチ}書^クと^ト立^タれ^ル

跋

うゝ玉の老はけり
一少ゆうは三伏乃
友り多しさうなる
月さるりれ沖一字と
神つゆ素元子の佳
集し所一十
四

横 ^{ヨコ}

扇 ^{ウチ}

鳥 ^{トリ}

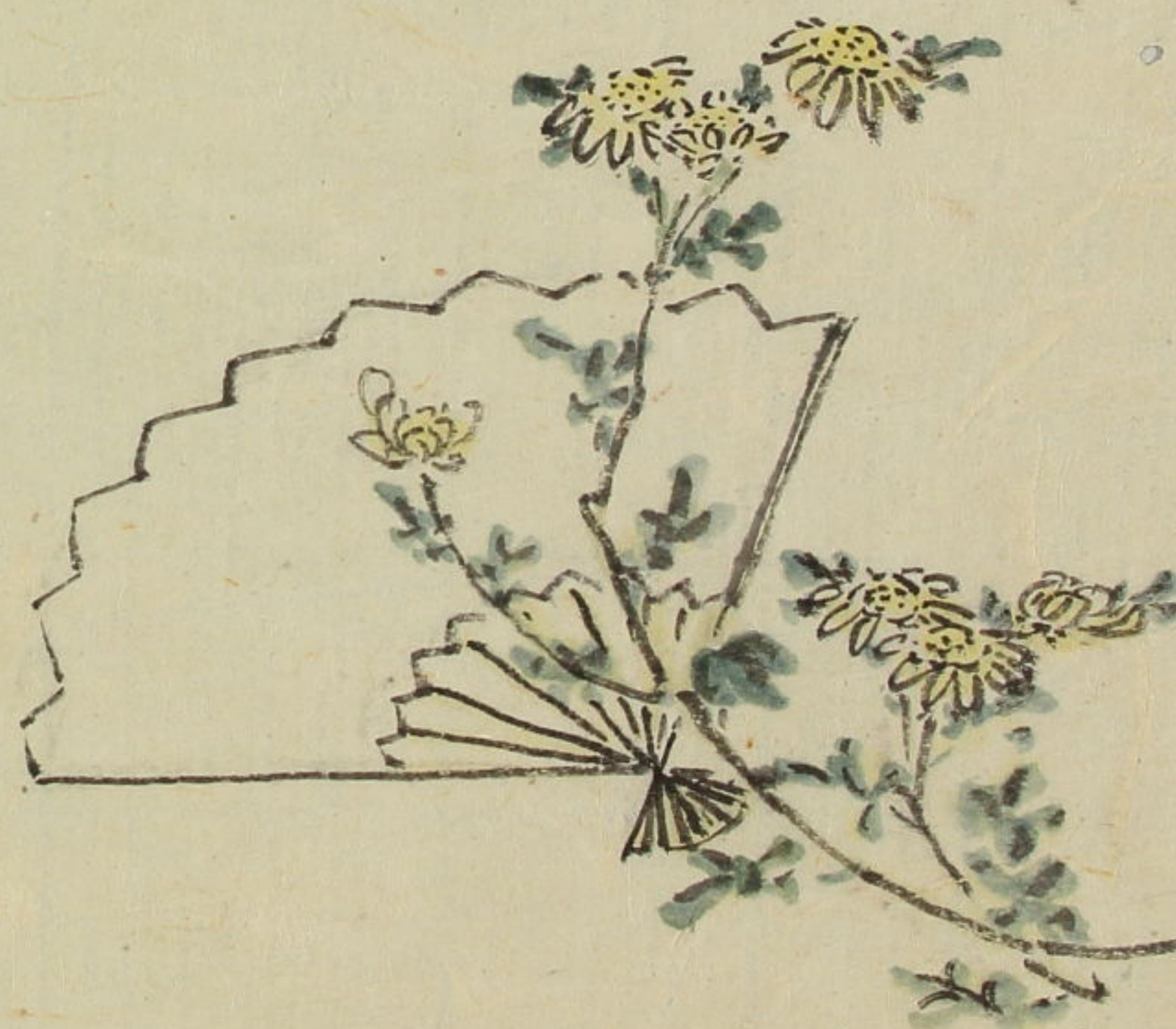
禮 ^{レイ}
像 ^{ゾウ}

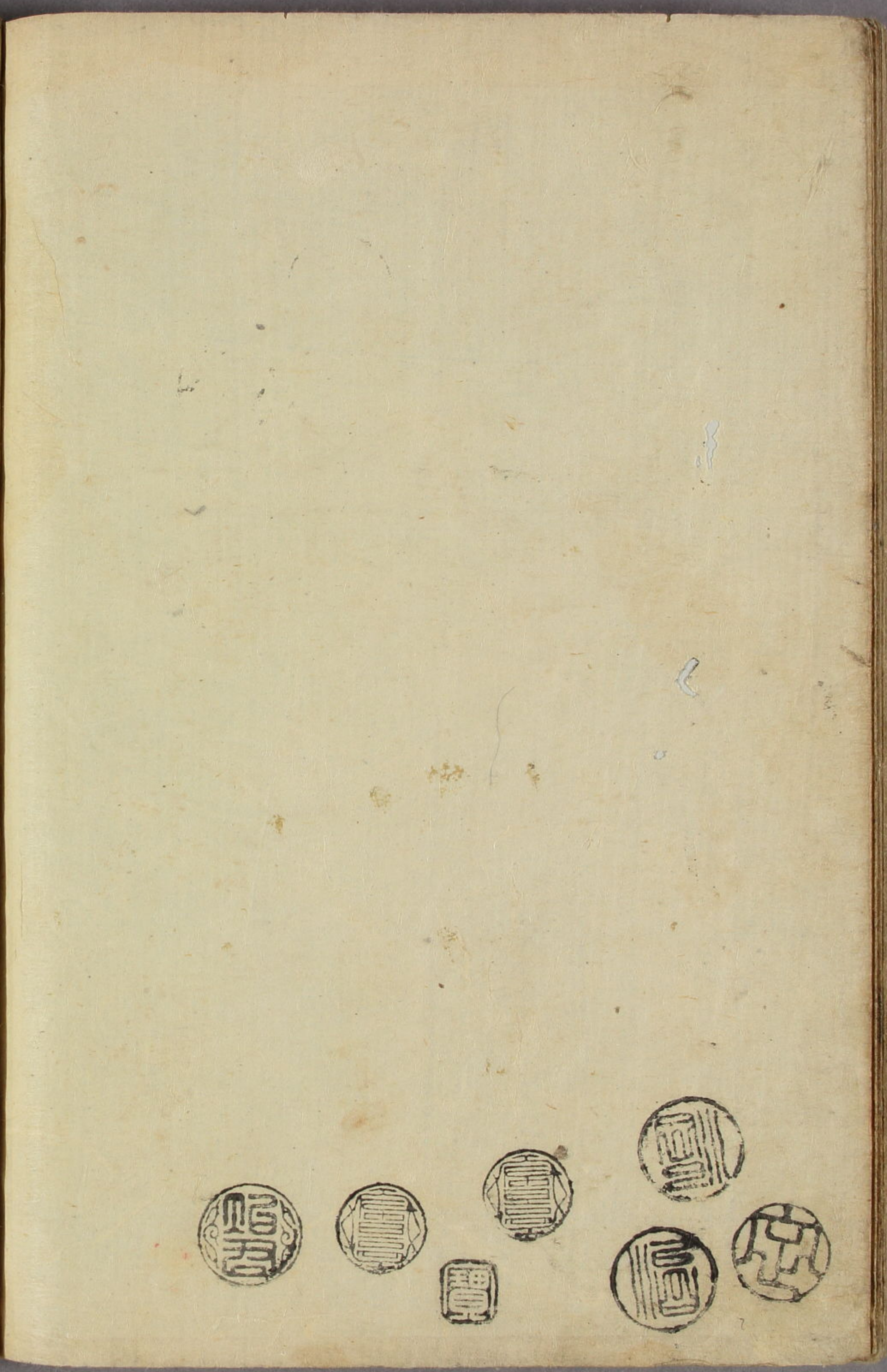
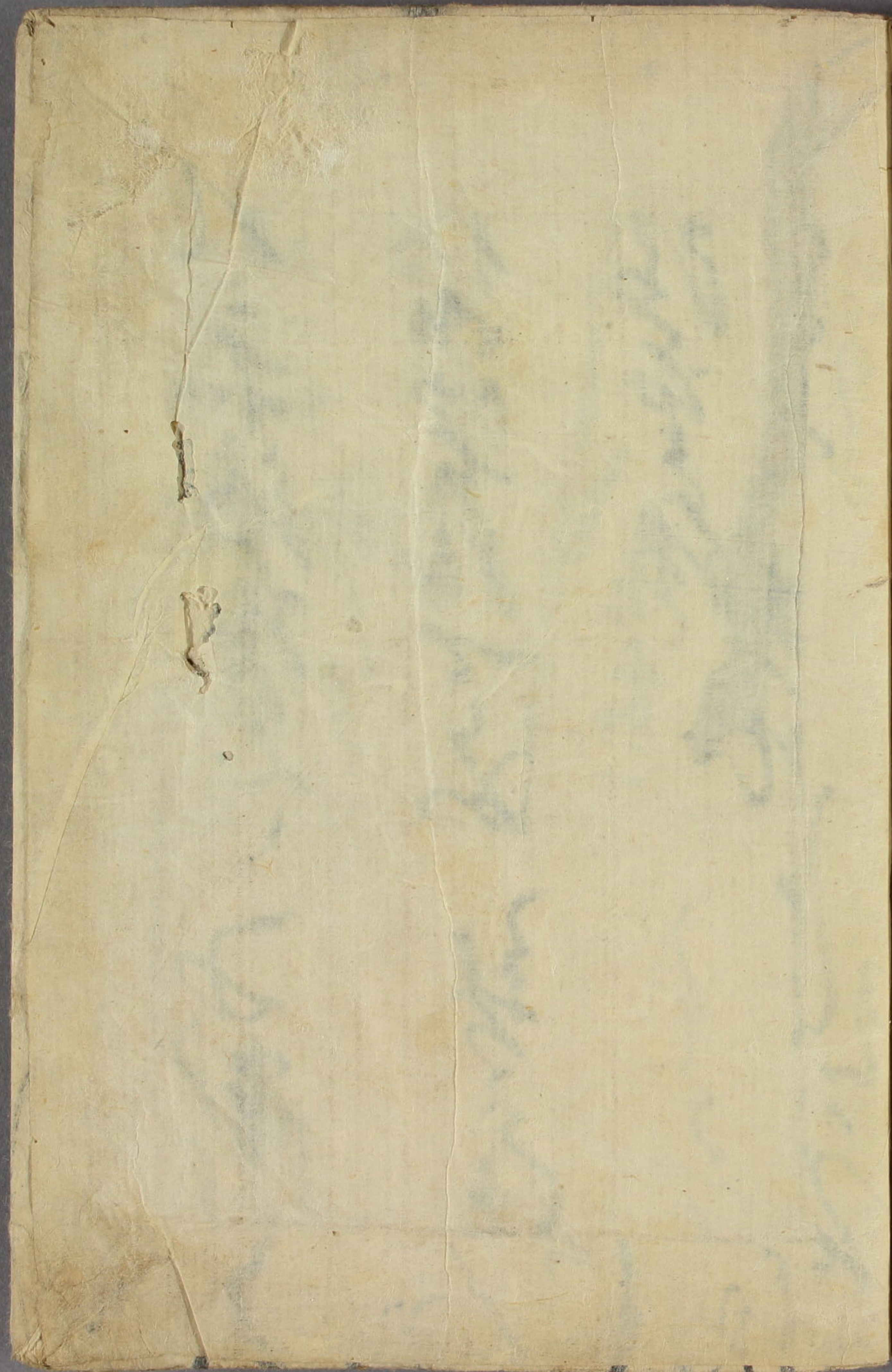
小



葉 ^ハ
殿 ^{テン}

林 ^{リン}
從 ^{ゾウ}







扇集

67

67

Handwritten text in cursive style on aged paper, likely a letter or document related to the book's content.

bb

99

熱興

世に五〇回忌
虚保子中
(1743)7994
酒と肴のこだわり処

九月二日

拝啓 早速所感見の致し... 俳事... 下
され有難く... 九州野坡
内の俳事... 新左衛門
十一日... 中一冊
九月二日

(寛保三 一七五三)